

保護者の皆様へ

令和6年度全国学力・学習状況調査結果について（天満南小学校）

令和6年4月18日に全国学力・学習状況調査が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われました。本校児童の国語・算数の学力の定着状況は、概ね県平均よりも少し高くなっています。しかし、観点別にみると平均を下回る項目もありますので、今後さらに力を入れて基礎基本の定着に取り組んでいきたいと思っております。

国語

話し言葉と書き言葉の違いや、主語と述語の関係についてはある程度捉えることができている。また、タブレットを使った学習に取り組んできたことによって、目的や意図に応じた材料を集め、それらを分類したり関連づけたりして、伝えたいことを明確にすることができるようになっている。また、事実や経験に基づいた自分の思いや考えを文章にすることを得意としている。

児童の多くは、「国語の勉強は大切で、将来社会に出たときに役立つものだ」と思っているが、国語の勉強は好きではない傾向がみられる。また、学習中の様子としては、「物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、表現に着目していますか」の項目は全国平均より高かったが、「図を使って情報整理できていますか」「伝える内容を工夫していますか」等のいくつかの項目で全国平均をやや下回った。苦手意識もあるのか、今回のテストでも解答時間が十分でないと感じた児童の割合が高い。

学力テストの状況は、全国とほぼ同じかやや上回っている傾向にあるが、漢字の習得に課題が見られるため、引き続き朝の学習タイムや小テストを充実させ、漢字を確実に書き、使えるように指導を徹底していきたい。また、長い文章に苦手意識をもつ児童や、文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成することに苦手意識をもつ児童も少なくない。読書活動やブックトークの充実や、文章を読んで考えたこと、感じたことを発表する場を積極的に設けていきたい。

算数

「算数の勉強は大切で、将来社会に出たときに役立つものだ」と思っており、「算数の勉強は好きだ」という児童が多い。多くの項目で全国平均を上回っている。

計算ドリルや計算スキルを用いた反復練習により、基礎的な計算力は概ね身につけている。また、辺の長さや傾きに着目し、見取り図を作図する手順からどのような図形ができるかを判断することや、立体の面の数がいくつあるかを説明すること、単純に速さを求めることや円グラフや折れ線グラフを読み取るなどの基礎的な知識は概ね身につけている。

しかし、それらの基礎的な知識を、示された問題場面に適用して解くなど応用を求められる問題になると、正しい解決の筋道を立てて答えを出すことが難しい児童が多い。また、表の意味を理解したり、データの特徴を捉えたり、傾向を読み取ったりすることに課題のある児童が多いことが分かる。算数の授業だけでなく、社会や理科などでも目的に応じて必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理する機会を増やして指導を充実させていきたいと考える。

家・学校での生活

「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立っていますか」の項目が高く、毎日決まった時間に起床・就寝する、朝食をきちんと毎日食べる、など、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。また、「自分にはよいところがある」「将来に夢や目標を持っている」などは、全国平均を大きく上回っており、自分の力を信じ、自己肯定感をしっかりと持った児童が多いことが分かる。他にも「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」などの項目も全国平均を大きく上回っており、他者のために働きかけたい思いを持っている児童が多い。

5年までに受けた授業でICT機器をほぼ毎日使用しておりICT機器への関わりが大変高いこともあり、ICTを活用する項目においても全国平均を上回っている。今後も、今ある学習環境を最大限に生かし、ICT機器の活用能力を高めたい。

しかし、スマートフォンやSNS、動画視聴の時間は長くはないが、家の人との約束はやや守れていない傾向にある。また、学習に使うよりゲームに使っている時間が長いことも課題である。家庭との連携を深めながら、学校や家庭での正しいICT機器の使用方法について、検討をしていきたい。

「学校に行くのは楽しいと思いませんか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いませんか」「友達関係に満足していますか」の項目が県平均、全国平均やや低く、学校や学級での居場所づくりや人間関係の構築の方法については、考えていく必要がある。

学習面においては、友達や周りの人と話し合いをし、相手の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことができている児童が多い。しかし、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりすることはできていないと感じているところがある。今後も、話し合い活動をさらに充実したものにし、自分の意見や考えを相手に伝える力を育んでいきたい。

外国語では、「英語の勉強は大切で、将来社会に出たときに役立つものだ」と思っており、「英語の勉強は好きだ」という児童が多い。また、授業の内容もよく理解できている。

どの教科においても、その必要性は強く感じているところがあるが、難しさを感じている部分も感じられる。子どもたちが、主体的に興味を持って授業に取り組めるよう工夫を重ねていきたい。